

【学力向上フロンティアスクール用中間報告書様式】（中学校用）

都道府県名	神奈川県
-------	------

I 学校の概要（平成15年4月現在）

学校名	相模原市立麻溝台中学校					
学 年	1年	2年	3年	特殊学級	計	教員数
学級数	4	4	5	1	14	25
生徒数	140	144	167	1	456	

II 研究の概要

1. 研究主題

<p>わかる授業で楽しい学校づくり —学ぶ意欲、学ぶ力を育む授業改善を通して—</p>
--

2. 研究内容と方法

(1) 実施学年・教科

<ul style="list-style-type: none"> ・ 1年生・数学 学力向上のためには、基礎の充実・つまずきの早期解決が大切であるため。 ・ 2年生・数学 1年次に少人数指導を受けた生徒たちに積み上げをするため。 ・ 1～3年生・保健体育 学校として、当該教科に関する研究実績があるため ・ 全学年・全教科 基礎・基本の定着、思考力を育てる、指導と評価の一体化をめざす授業改善
--

(2) 年次ごとの計画

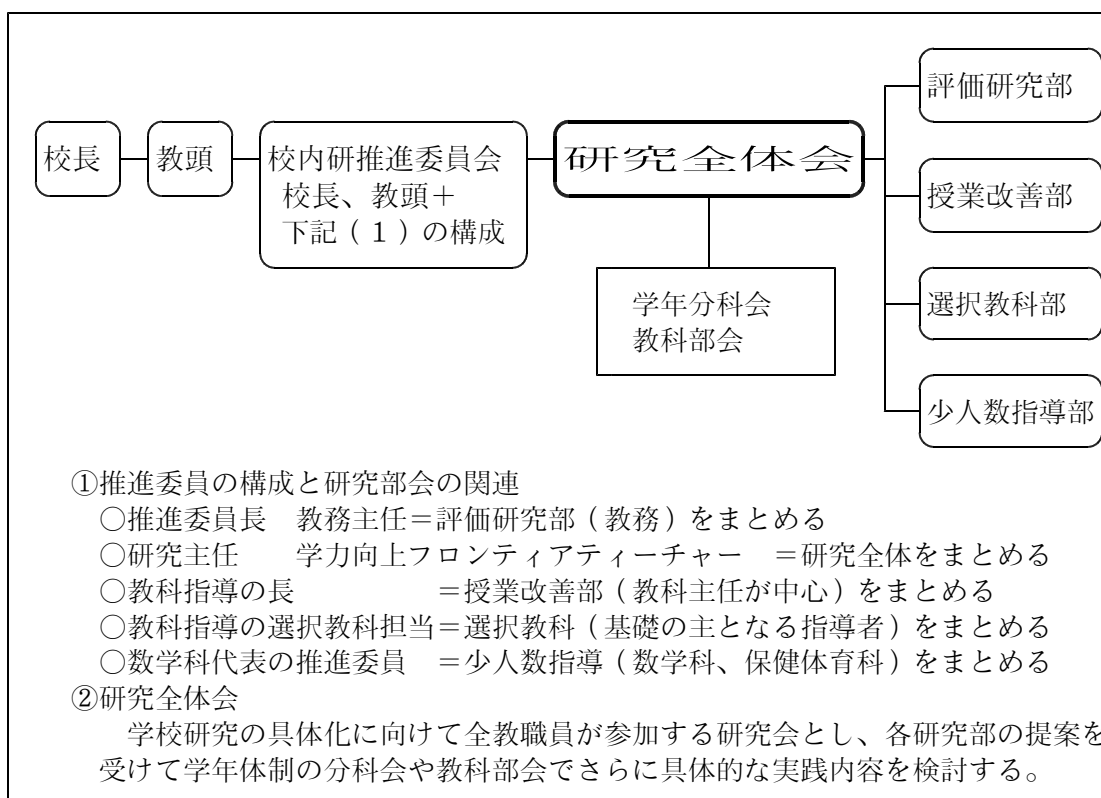
平成14年度	<ul style="list-style-type: none"> ○ 研究テーマ「基礎学力の向上をめざして」 絶対評価の研究、授業改善の手だての検討 ○ 研究の見通し 絶対評価導入に伴う教科指導上の諸課題を解明し、信頼性の高い絶対評価の実施をめざす。まず学習指導要領に示す基礎・基本を押さえて、教科ごとにそれらを確実に身につける手だてを工夫し、自ら学び考える力を育てる授業改善を全校体制でめざす。 個に応じた指導として、特に数学科では、少人数指導の指導方法を、保健体育科ではT Tの指導方法の実践研究を進める。 基礎の補充のためには、選択授業の指導法及び教材の開発を実践課題とする。 ○ 研究の内容・方法 1 絶対評価の導入に伴う授業改善
--------	--

	<ul style="list-style-type: none"> ① 評価規準、評価の時期、場面、方法の検討 ② 指導と評価の一体化をの手だての検討 2 選択基礎コースによる補充学習の実践 <ul style="list-style-type: none"> 2, 3年生での国語、数学、英語のT Tによる選択授業の指導形態、教材の開発 3 少人数指導の効果的あり方 <ul style="list-style-type: none"> ① 1年数学科の少人数指導の形態、指導方法の研究 ② 保健体育科のT Tによる領域選択、種目選択の工夫
--	---

平成15年度	<ul style="list-style-type: none"> ○ テーマ「わかる授業で楽しい学校づくり －学ぶ意欲、学ぶ力を育む授業改善を通して－」 ○ 研究の見通し 生徒の実態に応じたきめ細かな指導の充実を図る観点から、 <ul style="list-style-type: none"> 1 指導方法や学習活動の工夫 2 個に応じた指導形態の工夫 3 評価をいかした指導の工夫 <p>の3点について授業改善を行い、わかる授業を展開すれば、生徒は学ぶ楽しさを実感し、学ぶ意欲も向上するであろう。</p> ○ 研究の内容・方法 <ul style="list-style-type: none"> 1 基礎・基本のとらえ、授業改善の視点の明確化 <ul style="list-style-type: none"> ① 全教科で学力向上を考えるために、研究構想をはっきりさせ、共通認識を持って授業改善に取り組めるようにした。 ② 研究授業を通し、授業づくりの研究協議 2 見通しを持った学習をめざすゴールチャートの改善と活用 3 少人数指導の効果的あり方 <ul style="list-style-type: none"> ① 1年数学科の少人数指導の形態、指導方法の研究 ② 保健体育科のT Tによる領域選択、科目選択の工夫 4 選択基礎における補充的学習指導 <ul style="list-style-type: none"> ① 指導形態、教材の研究 ② 学習支援ボランティアの活用
--------	--

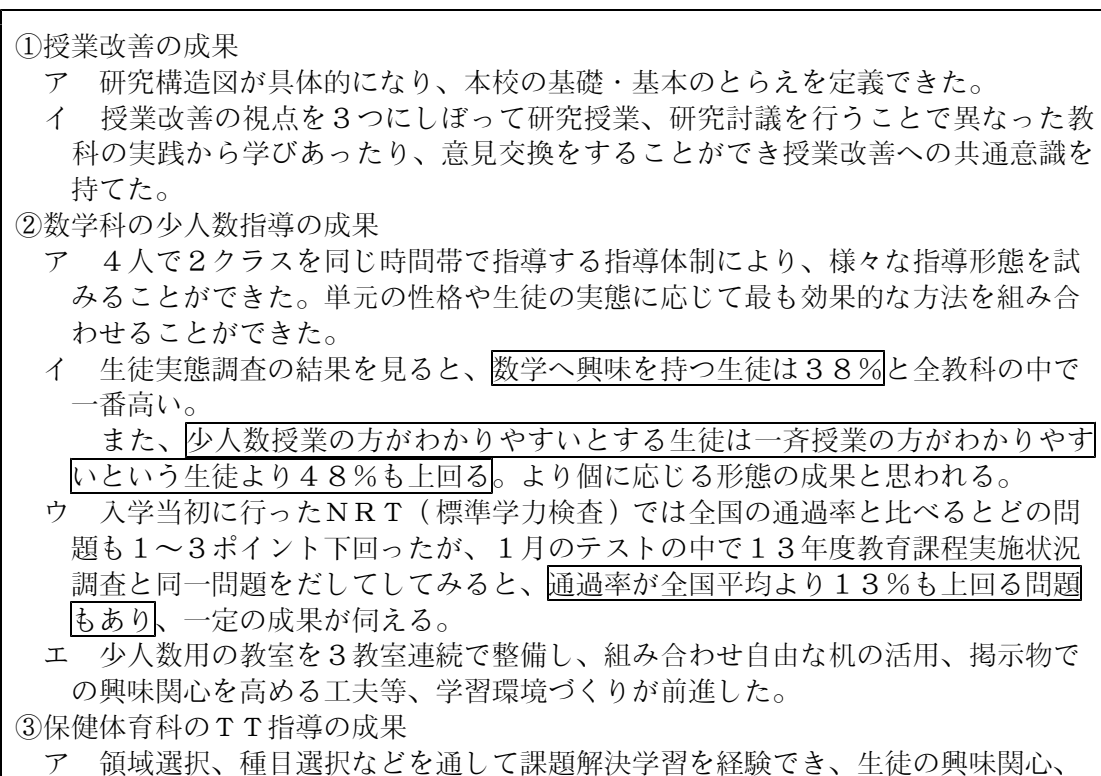
平成16年度	<ul style="list-style-type: none"> ○ テーマ「わかる授業で楽しい学校づくり －学ぶ意欲、学ぶ力を育む授業改善を通して－」 ○ 研究の見通し 平成15年と同じ ○ 研究の内容・方法 平成15年と同じ。ただし3年次のまとめに向けて特に次の点を重視する。 <ul style="list-style-type: none"> 1 わかる授業をめざし、各教科がテーマを設定して継続的な指導をする。 2 ゴールチャートを改善し、生徒一人ひとりが見通しを持った学習ができるよう支援する。 3 学力を向上させ定着させるために、適切適量の家庭学習を課すなど、学習活動の継続性を作り出すよう支援する。
--------	--

(3) 研究推進体制



Ⅲ 平成15年度の研究の成果及び今後の課題

1. 研究の成果



スキルの向上につながっている。

- イ 3年間の指導計画、評価規準、生徒の学習カードが完成度が高く、指導と評価が一体化しているため、生徒の学習への関心度を高めているのが実態調査結果からもわかる。

データ：「自分なりに工夫しながら発表している時に楽しいと感じたり、技能や記録が伸びると時にうれしいと感じる」・全校79.1%、3学年89%の生徒が肯定している。

- ④本校独自の観点別評価ソフトが改善され、評価への共通理解、効率化につながった。

- ⑤生徒実態アンケートでの目標設定した項目に顕著な数値の向上が見られた。

データ：「わかる授業で楽しい学校づくり」という視点

- 学校生活は楽しいか 肯定的意見が7.2ポイントアップ

・楽しい・まあ楽しい

H13(57.4%)→H14(65.2%)→H15(72.4%)

- 授業の理解度 肯定的意見10.3ポイントアップ

・わかる・だいたいわかる H14(51.9%)→H15(62.2%)

・わからない・ほとんどわからない H14(13.9%)→H15(12.0%)

2. 今後の課題

1 授業改善について

- ①各教科レベルで実践を深める（各教科で教科の学力向上の手だてを捉え、生徒理解のうえにたった対応を見通しを持って取り組む。）
- ②ゴールチャートの改善を通じた指導と評価の一体化（生徒自身が見通しを持った学習、振り返りができるよう、またその結果が指導者が生徒一人一人を見取って指導改善につながるよう実践を続ける。）

2 少人数指導について

- ①生徒に適したコース設定と生徒が自分に適したコース選定ができる手立て
- ②個人差に応じ、どんな複線型の素材を用意すればよいか、教材づくり
- ③思考力を高める発問、授業展開の工夫
- ④コースにわけたあとの評価の方法

3 学習環境づくりについて

自己学習力を高める指導、家庭での学習時間の増加を促す手だてなど、学習活動の継続性を作る出すよう支援する、

Ⅳ 学力等把握のための学校としての取組

<p>学校生活実態調査</p> <ul style="list-style-type: none"> ●目的：生徒の生活や学習に関する実態及び意識、変容を捉え、よりよい学校づくりに役立てる。 ●実施内容：生活面全般、教科、総合、選択すべての学習への関心、意欲、取組み状況、意識など22項目 ●実施時期：11月 <p>NR T（全国標準的診断的学力検査）</p> <ul style="list-style-type: none"> ●目的：生徒の学力の実態を相対的に把握し、向上の手だてをさぐり、生徒の変容を図る検証の資料とするため。 ●実施内容と時期：1年生対象に数学と国語（4月）数学（3月）、2年生対象に数学（3月） <p>教育課程実施状況調査</p> <ul style="list-style-type: none"> ●目的：1年生の学力を検証するため ●実施内容：国語・社会・数学・理科・英語の平成13年度の問題 ●時期：3月 <p>神奈川県学習状況調査</p> <ul style="list-style-type: none"> ●目的：2年生の学習状況を客観的に検証するため ●内容：国語・社会・数学・理科・英語 ●時期：3月
--

Ⅴ フロンティアスクールとしての研究成果の普及

<p>* 研究会、説明会等の開催実績及び開催予定（日時、場所、対象、会の目的等）</p> <p>6月27日 大和市小中学校の研究担当の先生向けに本校研究実践に関する講演会</p> <p>8月26日 神奈川県教育課程研究会 全体会で取組みについて発表</p> <p>10月6日 高相地区対象 公開授業研究会（数学・保健体育）</p> <p>10月10日 相模原市立緑が丘中学校にて授業改善の具体的実践例について講演会</p> <p>11月27日 相模原市立富士見小学校研究発表会にて中学校の課題や事例を紹介するためにパネルディスカッションに参加</p> <p>平成16年2月 中間まとめの研究紀要作成・配布</p>
--

◇ 次の項目ごとに、該当する箇所をチェックすること。（複数チェック可）

【新規校・継続校】	<input type="checkbox"/> 15年度からの新規校	<input checked="" type="checkbox"/> 14年度からの継続校		
【学校規模】	<input type="checkbox"/> 3学級以下	<input type="checkbox"/> 4～6学級		
	<input type="checkbox"/> 7～9学級	<input type="checkbox"/> 10～12学級		
	<input checked="" type="checkbox"/> 13～15学級	<input type="checkbox"/> 16学級以上		
【指導体制】	<input checked="" type="checkbox"/> 少人数指導	<input checked="" type="checkbox"/> T、Tによる指導		
	<input type="checkbox"/> その他			
【研究教科】	<input type="checkbox"/> 国語	<input type="checkbox"/> 社会	<input checked="" type="checkbox"/> 数学	<input type="checkbox"/> 理科
	<input type="checkbox"/> 外国語	<input type="checkbox"/> 音楽	<input type="checkbox"/> 美術	<input type="checkbox"/> 技術・家庭
	<input checked="" type="checkbox"/> 保健体育	<input type="checkbox"/> その他		
【指導方法の工夫改善に関わる加配の有無】	<input checked="" type="checkbox"/> 有	<input type="checkbox"/> 無		